

2019年度 事業報告書

特定非営利活動法人ふるすあるは

1 事業の成果

定款上の事業名

(1)情報サイトの運営事業

「子ども情報ステーション—精神障がいをかかえた親とその子どもの応援サイト—」を運営し、1年間に、1,002,231人のユニークユーザーからサイト訪問、延約195万のページ閲覧があった。読者アンケートを実施、43件の回答があり、サイトの改良につなげた。

(2)心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業

啓発チラシ「親が精神疾患になったときの子どもと親のケアガイド」を、約7,000枚発行し、イベントでの設置や、活動に賛同するキッズパワーサポーターの協力による配布を行った。キッズパワーサポーター登録者数は、1,200名をこえ、第5期に新設したメルマガ会員も、600名をこえた。5回学会・イベントへのブース出展、オンラインストアでの販売などを通して、心理教育絵本(家族のこころの病気を子どもに伝える絵本・子どもの気持ちを知る絵本:約450冊、『生きる冒険地図』:約400冊、「ボクは話せない」:約130冊)を新たに普及した。公益社団法人日本精神保健福祉士協会発行、『子ども虐待に気づくためのソーシャルワークハンドブック～精神保健福祉士の強みを活かす～』の制作に協力し、『生きる冒険地図』とともに、子ども子育て応援のコンテンツをひろげた。

(3)セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業

子どもの気持ちを表現した絵の展示と活動掲示では、およそ500名の方が来場し、法人のメッセージを届けることができた。計8回のセミナー講師を担当し、精神障がいの親と子どもの支援ならびに、精神保健に関する普及啓発活動を行った。

(4)目的を同じくする他団体等との情報交換や他団体と連携した協働事業

精神障がいを抱える親と子どもの支援に取り組む全国の関連団体の団体に関する情報を随時アップデートし、運営する情報サイト内で提示した。親が精神障害の子どものケアのための海外の絵本の翻訳プロジェクトに参加した。連携して精神障がいの親と子どもの支援に取り組んだ。

※6期の後半は、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントや学会が中止、またはオンライン開催になる機会が多く、普及啓発活動への影響があった。情報サイトで特設ページを新設するなど情報発信に力を入れた。

2 事業の実施に関する事項(2019年10月1日 ~ 2020年9月30日)

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報サイトの運営事業	情報サイトの運営	通年	事務所 さいたま市内	10名	精神障がい の親とその子ども、支援者	約100万人 685千円
心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業	チラシ配布による啓発	通年	事務所	3名	同上	約7000人 5,701千円
	学会・イベント出展での絵本販売	通年	東京、埼玉、岡山、三重等	5名	同上	約1000人
	精神保健啓発ツール制作	通年	事務所	5名	精神保健福祉士など支援者ほか	約1万人
	普及啓発イベント開催	12月ほか	東京	15名	イベント鑑賞者	約500人
セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業	セミナー講師	通年	東京、埼玉、新潟	2名	セミナー参加者	約500人 1,209千円
他団体と連携した協働事業	研究協力、出版協力	通年		2名	精神障がいの親とその子ども、支援者	約3000人 -